

### III 精道村のころの芦屋

明治22年は、旧憲法が発布された歴史的な年であったとともに町村制の施行で芦屋村、津知村、三条村および打出村の4カ村が合併、精道村誕生の記念すべき年でもありました。精道村の村名は、精道小学校の校名から命名、また村役場は芦屋樋口新田（現在の精道小学校内）に設けられました。大正12年になって、隣接地（現在の市役所北側）に、日本一といわれた村役場が新築されました。

芦屋市は、大阪周辺の沖積地と六甲山麓につらなる帯状の緩やかな傾斜地とが移り変わるところに位置し、その立地条件から平安のむかしから交通の要所でした。明治以前までの生業は、主として農業と漁業や、芦屋川の急流を利用した水車産業などでしたが、近代にな

って、日本の経済機構が新しく形成され、大阪・神戸の2大都市の発達によって芦屋は格好の住宅地として注目されるようになりました。大正8年、精道村の戸数は1,937戸でしたが、昭和6年には6,000戸を数える住宅街へと発展しました。精道村時代の生活風俗や習慣、年中行事には、芦屋の土地を守り育ててきた近世のコミュニティの特色が継承されています。

明治38年の阪神電車開通、大正2年の国鉄芦屋駅開設、同9年の阪急電車開通、昭和2年の国道2号開通・阪神国道電車開通、さらにバスも走るようになり、精道村時代の芦屋は交通の発達につれめざましい発展をとげました。

### 1 村の施設 村役場

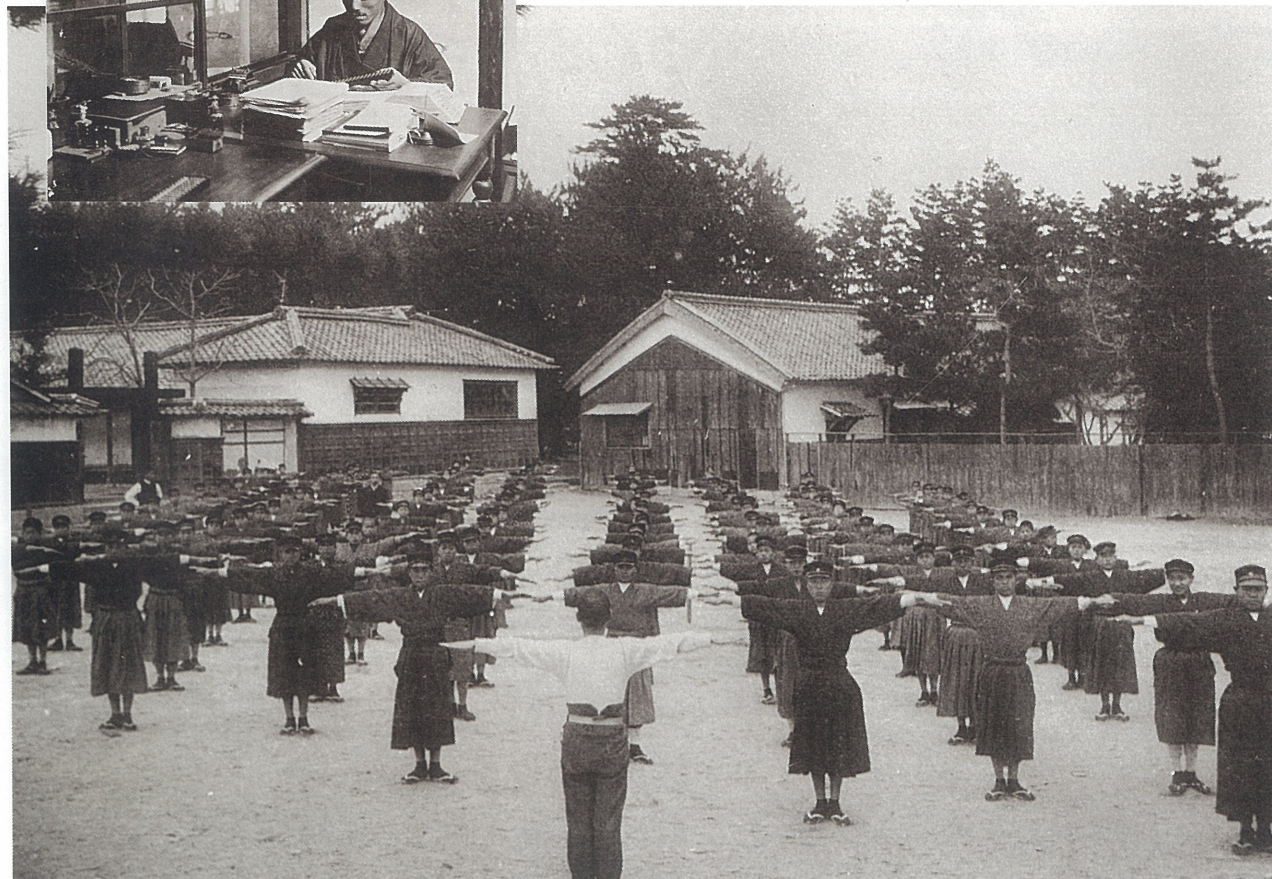
新築の村役場は、鉄筋コンクリート造3階建て、敷地572坪、建坪56坪9合、総工費約63,000円で、当時日本一の村役場といわれました。



新築された精道村役場 大正12年6月14日竣工。



精道村誕生当時の役場執務風景



精道村役場（写真右手の建物） 精道小学校内に設置された精道村役場（大正3年ごろ）。当時の人口は、5,094人、戸数1,095戸。



新築当時の精道村役場内の風景



新築当時の精道村役場内の風景